

もしもボクがああのロボットを買ったとしたら.....

特別企画・HOAP-1 がウチにやってきた!

あさの じゅんや
浅野 純也 (ライター)

..Lovely
Robot ああのロボットを
買っちゃおう!

ブーチにワンダーボーグにBN-1にドッグコム、メモニ、CAM-08、ロボットフレンドPINO、ドリームフォース01.....ボクたちのまわりには今、手軽に買うことができるロボットが増えてきている。本誌読者なら1つくらいはロボットを買ったことがあるだろうし、あるいはこっちのほうが多いかもしれないが、自作したロボットも持っている人がいるはずだ。一家に一台の時代という大げさだが、それくらい身の回りにロボットがあふれている。それでも10万円のラッテとマカロンを始め、同じく10万円のラジコンザク、15万円のAIBO、18万円のネコロ、40万円のFREEDOM、果ては600万円のHOAP-1と当然ながら上には上があって、ボクのお小遣いじゃカントンには買えないYO! なんて声も多い。個人は相手にしてくれないと思うけど200万円出せばASIMOを1日借りられるし、2000万円なら1年もレンタルできちゃう。

そこで今回から「もしボクがああのロボットを買ったら.....」というテーマで実際にロボットを買った「つもり」になって「我が家にロボットが来たとしたら」をシミュレーションしてみたいと思う。もちろん実際には買えるおカネなんてないのでメーカーさんの協力を得て、の話ではあるが(笑)



届けられたHOAP-1。大きい箱には付属品が、下の小さい箱にはHOAP-1本体が入っている。エアキャップに覆われているのが吊りゲージだ。本当はこれにデスクトップPCが加わる。

ホントなら読者の人に抽選で体験してもらうといいのだが、記事の都合上この原稿を書いている筆者宅をシミュレータとして使うことにする。

..Lovely
Robot 575万円を買った!
.....つもり

記念すべき第1回目は富士通のHOAP-1を「買って」みたいと思う。HOAP-1はすでに本誌でも紹介済みの世界初の市販ヒューマノイドであり、2足歩行やヒューマノイド研究用のプラットフォームとして販売されたもの。身長48cm。20自由度を持ち、全身のアクチュエータとセンサをUSBで接続した「USBロボット」でもある。

HRP用のプロトタイプを約2000万円で開発した富士通研究所のスタッフは徹底したコストダウンを実行、昨年の9月に制御用のデスクトップPC(もちろんFMV)付きで575万円という価格で販売すると発表したのはすでにレポートした通り。秋以降オーダーが入り始め、今年に入ってようやくデリバリーが始まったところだ。

実際の販売やメンテナンスは富士通の子会社である富士通オートメーションが担当。HOAP-1を購入するには同社へ連絡するか、あるいはツクモロボコンマガジン館で購入申し込みができる。ちなみにツクモロボマガジン館は昨年のロボフェスタ会場に出展、HOAP-1も店頭でデモをしたが、なんとその場で1台売れたこともあるらしい。

..Lovely
Robot 大きな箱が届いた!

というわけでシミュレーションは、すでに料金を払い込んで、いよいよ本日HOAP-1が自宅へ到着するところから始まる(笑)

HOAP-1は通常本体と付属品の箱が1個ずつとHOAP-1の動作確認に必要なゲー

ジ、そして制御用PCの2つの箱、計4個+1ゲージで届けられる。ピンポンとチャイムが鳴ったあと宅配業者が荷物を運んできた。今回は制御用PCは都合により不要としたので届いたのはHOAP-1の2つの箱と吊りゲージの3つ。吊りゲージはパイプフレームで組んであり、東急ハンズで部品を購入して同じものが作れるかもしれない。富士通側としては安全上耐久性上HOAP-1に不可欠な部材としてセットに同梱しているものだ。できれば分解して運んだほうがいかなとも思ったが、それは筆者の部屋が狭いせいだろう(泣)



小さい箱を開けると専用ケースが見え、その中にはHOAP-1が。無線ユニットや足裏センサは取り外した状態だ。



宅配便のお兄さんに聞いたところ、このデリバリーにあたっては特に保険もかけられておらず、配達の日指定があっただけ。ウワサに聞いていたとおり、600万円のロボットの送料は限りなくノーマルな宅配料金に近いということだ。もちろん中身